

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都江東区立東雲小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 135-0062
東京都江東区東雲2-4-11
E-mail shinonome-sho@koto-edu.jp
Website http://shinonome-sho.koto.ed.jp
幼児児童生徒数 男子 448名 女子 408名 合計 856名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「児童一人一人を大切にされた教育の推進」を学校理念として、ESD を、現代社会の問題を自らの課題として課題解決に立ち向かうことのできる人材を育成する活動と捉え、ESD の実践を通して、実践的な態度・能力、相手を尊重する態度・能力、世界的視野を育てることを目標とした。

具体的には、環境教育、異文化・自国文化理解、人権・民主主義の理解と促進、地球規模の問題を柱に、①エコに係る活動、②オリ・パラに係る学習、③ユニセフに係る活動、④未来に係る学習を行った。

① エコに係わる活動 (3 年生)

環境問題や地球温暖化について調べ、地球環境を守るために自分達ができることを考えた。校外学習でエコプロダクツ展や新聞社工場に行き、企業の環境に優しい取り組みについても学んだ。児童各々がテーマをもち、調べたこと、分かったこと、考えたこと、伝えたいことを年度末の東雲フェスティバル (学習発表会) で発表した。

② オリ・パラに係る学習（４年生）

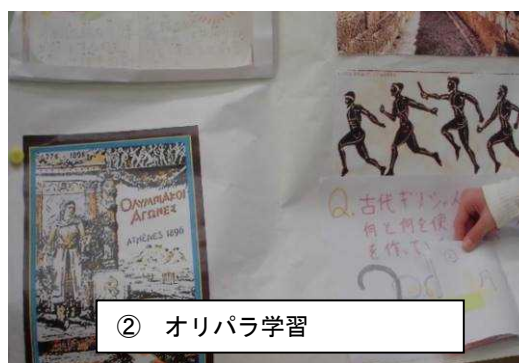
2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、4年生はオリンピック・パラリンピックについて学習した。オリンピック・パラリンピックには4つのテーマ「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」があり、それらについて調べるとともに、東雲フェスティバルでは、オリンピック・パラリンピックが楽しみになるような発表を行った。

③ ユニセフに係る活動（５年生）

世界の子どもたちの実態を学び、ユニセフの活動について学習した。学習を深めるために、実際にユニセフハウスを見学し、学んだことを集会で全校に発信した。また、発信後には募金週間を設け、募金活動を行うとともにユニセフへ寄付活動を行った。まとめとして、東雲フェスティバルで学習内容を発表した。

④ 未来に係る学習（６年生）

平和・国際理解・科学技術の3つのテーマの中から、「未来がよりよくあるために」どんなことが必要なのかを考えた。過去を振り返り、現代について深く見つめ、これからの未来がよりよくなるためにはどのようなことを大切にしていけばよいのかについて考え、児童各々が東雲フェスティバルにおいて提言を行った。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・活動に応じてウェブサイト
・実地見学 (ユニセフハウス (資料等含)、新聞社工場、商店街、エコプロダクツ展 (パンフレット含) 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程上、「教育目標を達成するための基本方針」として、ESDカレンダーをもとに、各教科、領域の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、指導方法の改善に努め、問題解決的な学習、自然体験や交流活動を通して思考力・判断力・表現力を育成すると明記している。また、学習成果の発表の場を通して学習の充実にも努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールの理念を基に、学習活度の成果を挙げるため、各教科・総合的な学習等の関連を見通し、年間指導計画をESDカレンダーとしてまとめ横断的・総合的に指導を行っている。

また、学習のまとめとして、学習発表会を実施し、他学年や保護者、地域に向けて発信している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

特別活動部内で年度末評価を行い、その後校内全体で評価を行っている。また、外部評価については、学習発表会時にアンケートを行うほか、学校評議員からも評価をしてもらっている。横断的・総合的な指導としてのESDカレンダー当校の財産となっている。年度末の東雲フェスティバル（学習発表会）は全校規模で行うことが定着しているが、児童にとっては伝える相手を精選した方が効果的である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校として、各学年が学習のまとめとして、年度末に東雲フェスティバル(学習発表会)を開催し、他学年や保護者、地域に向けて発信している。保護者からは、当校児童の成長が見られると好評である。地域や他学年の発表を見た児童にとって、意識の高まりが見られることが感想から分かる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特になし。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特になし。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

各教科・総合的な学習等の関連を見通した年間指導計画をESDカレンダーとしてまとめていることで、横断的・総合的に指導が可能となり、当校の財産となっている。

年度末の東雲フェスティバル（学習発表会）が定着しており、児童にとって学習活動の励みとなっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

29年度に引き続き、ESDの実践を通して、実践的な態度・能力、相手を尊重する態度・能力、世界的視野を育てることを目標とし、環境教育、異文化・自国文化理解、人権・民主主義の理解と促進、地球規模の問題を柱に、ESDカレンダーを作成し、①エコに係る活動、②オリ・パラに係る学習、③ユニセフに係る活動、④未来に係る学習を行う。年度末の学習発表会のありかたについては検討中である。